

空家を貸し出しませんか？

「周防大島町に住みたい」「空家を紹介してほしい」といった相談を多くいただいています。

周防大島町では、人口減少対策と空家の有効活用を目的とした「空家バンク制度」を行っています。使っていない空家を「空家バンク」に登録し、貸し出しすることにより、賃貸収入を得たり、家屋の老朽化を遅らせることができます。

登録の条件は、①すぐに暮らせる状態の家であること②家財などが無いことです。リフォームのための助成制度もありますので、まずはご相談ください。

なお、修理費用が多かかるとのや老朽化が進んだ物件については、事前にお断りする場合がありますので、ご了承ください。



空家リフォーム助成事業

空家バンク登録物件のリフォーム費用や家財処分費用の2分の1を助成する制度です。助成を受けた場合、空家バンクに5年間登録をいただく必要があります。

○貸主に対しての助成

・リフォーム

(助成上限額20万円)

家の機能向上のための改修費用(床・屋根などの修理、水回りの修理など)を助成します。

・家財処分費用

(助成上限額10万円)

布団や家具などの不要物の処分費用を助成します。

○借主に対しての助成

・DIYリフォーム

(助成上限額15万円)

自らが行うDIYにかかる原材料費を助成します。

■問い合わせ

政策企画課定住対策班

☎0820(74)1007

周防大島の文化財 ④2

正覚寺の山門(小泊)

《周防大島町文化財保護審議会会長 尾野榮明》

正覚寺は貞享元年(1684)に神浦から現在の地へ移ったと伝えられている浄土真宗本願寺派の寺院である。

良港に面して建つ山門は、大正7年(1918)に建立されたもので、同寺によれば

請負を初代泉寅吉(造船所経営)、吉崎榮治郎がそれぞれ務めたという。材料は総ヒノキ、20枚の欄間と、籠彫りの木鼻などで装飾された贅沢な造りで、そこに施された彫刻の題

材は、すべて菊で統一されている。菊は聴聞(説教を「聞く」という言葉に掛かり、菊水の文様は不老長寿を表していることから、そうした意味を込めたのだろう。

山門の棟札は確認できなかったが、彫刻師の門井浅一(鳳雲)が彫刻を手掛けたという覚書が、門井家の子孫のもとに遺されていた。その一方で浅一の弟で後に仏師となった門井長一(耕雲)が、父親に指示されながら彫ったという言い伝えもあることから、この兄弟が協力して彫刻制作に携わったと考えられる。

この兄弟の父親の門井宗吉は優れた設計者として知られていて、宗吉の設計に基づき各地の棟梁が寺社の普請(建築)に当たっていた。従って「宗吉が長一を指示していた」という言い伝えは、この山門の設計に宗吉が携わっていた可能性をも窺わせる。周防大島東部は、江戸時代半ば



籠彫りの木鼻

から明治・大正にかけて大工の出稼ぎが盛んだった地域で、出稼ぎ先の四国では、彼らのことを「長州大工」と呼んでいた。門井家はその代表的な家系の一つだった。

四国では人目を惹く彫刻で寺社建築を装飾し、その名を上げた門井家の人々だったが、周防大島の普請では設計に一層力を注ぎ、彫刻の題材を統一することなどによって建築の調和を図った。菊づくしの彫刻で装飾されたこの山門からは、そうした門井家の作風の変化を読み取ることができる。

◎主な参考文献

川口 智「彫刻師・門井鳳雲」『周防大島の建築文化』2